

研修実施報告書

研修名

強度行動障害支援体制構築研修

法人名

社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会

開催年月日

計6回実施：

第1回：8月4日 第2回：9月10日 第3回：9月29日 第4回：12月23日 第5回：1月19日（加えて、8月29日に札幌市視察を実施）

開催場所

社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会 ひだまりの里きよせ・Leaves 練馬高野台

研修の目的

本研修は、強度行動障害を「個人の課題」ではなく「地域構造の課題」として捉え直し、予防的に支援がつながる地域支援体制の構築を目指すことを目的として実施した。先駆的な自治体（札幌市）における集中的支援および体制整備の取組を学び、その背景にある制度設計や合意形成の仕組みを理解した上で、練馬区の人口規模や都市特性に引き寄せて再解釈することを重視した。

また、集中的支援事業を受け入れる際に求められるアセスメントの整理方法や、関係機関がどの段階でどのように関与するかといった支援体制のフローについても検討を行い、支援が属人的にならず、地域として共有・運用可能な仕組みとして整理することの重要性について学びを深めた。

研修の内容

本研修は、全6回の勉強会およびワークショップ形式で構成し、強度行動障害を地域構造の課題として捉え直す視点を段階的に深める内容とした。

第1回ではオリエンテーションとして、強度行動障害支援をめぐる全国的な動向を概観するとともに、先駆的に集中的支援事業を実施している自治体の取組を題材に、地域支援体制やアセスメントの基本的な考え方について整理した。

第2回では、札幌市における集中的支援および体制整備の実践についてヒアリング結果を共有し、多拠点・多機関連携を前提とした支援構造、合意形成のプロセス、役割分担の在り方について理解を深めた。

第3回では、中核的人材の役割や機能を確認するとともに、集中的支援事業を受け入れる際に必要となるアセスメントの整理方法や支援体制のフローについて意見交換を行い、個人の力量に依存しない仕組みとして整理する視点を共有した。

第4回では、練馬区において地域診断ワークショップを実施し、Q-SACCSの構造に基づき、ライフステージと支援サブシステムを掛け合わせた地域支援体制の可視化を行った。移行期（インターフェイス）に課題が集中していることを確認し、地域として優先的に取り組むべき課題の整理を行った。

第5回では、これまでの検討内容を踏まえた全体のまとめとして、拠点コーディネーターをハブとした地域実装の方向性や、研修成果を地域の共通ルールや仕組みに翻訳していく必要性について確認した。

研修全体を通じて、特性ワークシート、冰山モデル、ABC記録、スキッタープロット、FAST等の各種アセスメントツールを用い、行動の背景理解と環境調整を中心とした標準的支援の考え方を共有した。

研修の成果（今後地域に活かされる点を必ず記載）

本研修を通じて、強度行動障害支援を「発生後対応」から「地域予防」へと転換する視点が共有された。特に、移行期（インターフェイス）に課題が集中していることが可視化され、進学・卒業・18歳移行時に最低限共有すべき引継ぎ項目を地域として整理する必要性が明確となった。

また、地域生活支援拠点を「緊急対応の場」から「地域学習と予防のハブ」として再定義し、拠点コーディネーターが行政・事業所・学校等をつなぐ役割を担う方向性が確認された。これにより、研修を修了した中核的人材を、個々の事業所内で完結させるのではなく、拠点を中心とした地域支援体制の中で活用していく具体的なイメージが共有された。

さらに、中核的人材修了者が、日常的な支援や助言を通じて地域内の支援力を底上げするとともに、より困難なケースに対しては、広域的支援人材や専門機関と連動しながら集中的支援につなげていく段階的な支援構造について理解が深まった。集中的支援事業についても、緊急的・例外的な対応としてではなく、予兆段階での気づきや地域診断の結果を踏まえて発動される仕組みとして整理され、地域全体で共有される支援プロセスとしてのイメージが具体化した。

これらの成果は、今後、清瀬市・練馬区における地域診断ワークショップの定例化や、中核的人材と連動した予兆段階支援および集中的支援事業の実装へと発展させることが期待される。

研修の参加者

【全体人数】52名

【当該法人の参加人数】12名

【当該法人以外の参加人数】40名